



子ども 佐賀新聞

9月1日(月) 夏休み特別号

本校児童と卒業生(現中1)が掲載されました。

6年木寺 璃乃さん、福田 寧々さんと5年 田栗 羽夏さんの3人が取材して記事にしたのが、西川登町の伝統産業である「西川登竹細工」。職人の栗山勝雄さんに取材をし、250年もの間受け継がれてきた竹細工に携わる魅力を紹介しました。

本校卒業生(中学1年)の福島 琉華さん、前田 陽菜さんは、武雄市橋町に伝わる伝説について、潮見神社36代宮司毛利 清彦さんに取材しました。

題して「潮見のカッパ伝説」信じる?。取材を通して伝説の内容と、六角川沿いにある「かっぱの誓文石」のことを知りました。また、この伝説を広く宣伝し、他県との交流をしたいという宮司さんの思いも知ることができたようです。

夏休みの時間を活用したこれらの取組は、まさに自分の興味・関心からくる自主的な学びの姿といていいでしょう。新聞記事という形で結果を出した子ども達の頑張りに大きな拍手を送りたいです。

4年生防災教室

9月2日(火) 武雄消防署から講師を招き、防災教室を受講しました。

「防災とは・・・災害が起こった時に“けがをすることがあるかもわからない”“死ぬことがあるかもわからない”という意識・想定を持っておくこと」と言われたことが心に刺さりました。「命を守る行動」の裏返しは「死から逃れるための行動」ということであり、生と死が表裏一体であることをあらためて意識しました。

みんなには、実際に災害が起きたとき、

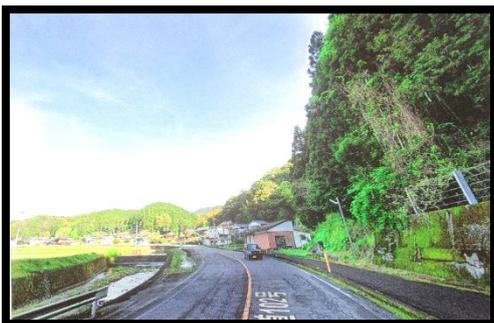
「ここは危ない!」と

予想できる力を
身につけよう!

消防隊の方の願い

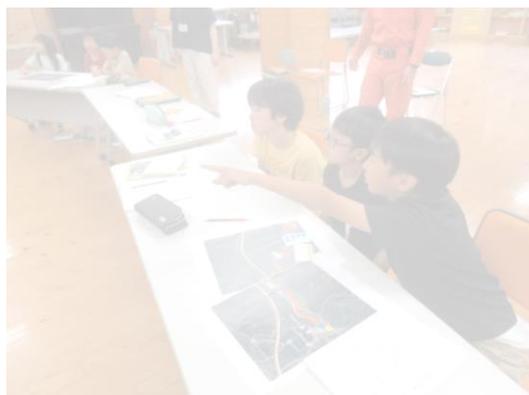
子ども達は、消防隊の方から実際に起こった災害の写真や動画をみせてもらいました。特に武雄市北方町で内水氾濫が起き、ゴムボートで救助に向かう様子の動画は衝撃でした。

続いて、学校から矢筈ダムまでの道のりの写真を見て、どこに・どのような危険があるか想像し、ハザードマップを作りました。子ども達は想像豊かに“場面想定”し“危険な状況”を考えだしました。



『神六一矢筈と進む道路。』大雨、台風、大雪の時にどのような災害が起こるでしょうか・・・

写真を見ながら、「ここにはガードレールが無いから、洪水になったら田んぼに落ちる！」とか「この坂道は、大雪になるとすべって危ない」などと危険予知の力をフルに働かせていました。



まだ9月です。今後、台風が来たり、秋雨前線がかかったりするときどのような災害が起こるかわかりません。その時に備えておくことの大切さが十分にわかった防災教室でした。



9月8日公開授業（LDX2回目）開催！

◆ 4年生社会科 「自然災害から人々を守る活動」

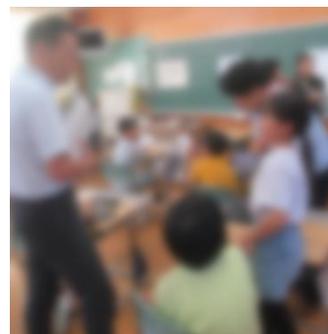
◆ 5・6年生体育科「マット運動」

4年生は社会科で自然災害から命を守る学習に取り組みました。武雄市は毎年のように水害や土砂災害の危険に見舞われます。また、西川登小学校体育館は避難所に指定されています。

子ども達は、自分が住む町の災害状況は知識としては知っています。しかしながら、実際に避難所へ行ったり、そこで過ごしたりした経験を持つ児童はいません。

そこで、この学びを通してもっと自分事として災害から命を守るためにできることはどのようなことがあるかを考えました。

**防災パンフレットを
作って、西川登を
災害に強い町に
しよう！**

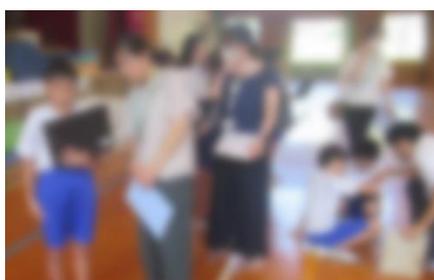


西川登に住む、いろいろな人たちに向けてパンフレットをつくろうとしています。

5年生と6年生は、合同で体育の学習に取り組んでいます。今回公開したのはマット運動です。

器械運動を苦手と思う子ども達もいることでしょうか。しかし、今回、マット運動のおもしろさはどういうことか、今の自分にできることは？自分ができるようになりたいことは？と子どもと共に学習をつくっていくことに取り組みました。

体育の時間になると一目散に体育館に向かい、自分達で準備をして学習を始める子ども達です。



他校の先生に質問をされても、自分が学習してきたことをきちんと説明できる子ども達です。